

ネットワーク

東北大学文学部
同窓会会報
2009年9月
vol.2

文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行いたしました。年1回、定期的に発行してまいりますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご利用ください。

同窓会報第2号をお届けします



同窓会長
文学部長・研究科長
花登正宏

本年4月より、文学部長・文学研究科長の任に就くこととなり、職責により同時に文学部同窓会長の重責を務めさせていただくこととなりました。よろしくお願い申し上げます。

同窓会には、従来より卒業・修了祝賀会開催への援助、阿部次郎記念賞への協賛、文学部広報誌『考えるということ』刊行への助成等を行っていただいております。これら文学部・文学研究科の事業へのご支援に対し、文学部長として厚くお礼を申し上げます。

一昨年の創立百周年を機に新たに発足した東北大学校友会は、皆様ご承知の通り、「菽友会」と命名され、本年10月10日・11日には第3回ホームカミングデーを開催し、各学部同窓会を統括する東北大学全学同窓会として、同窓会会員の皆様の紐帯を強化すべく、さまざまな行事が予定されております。

今後、全学同窓会である菽友会と文学部同窓会との連携を強化していくことが求められておりますが、それに先立つ問題として、文学部同窓会自体の活性化、文学部同窓会員に対するサービスの提供などに積極的に取り組んでいく必要があるのではないかと考えております。この点に関しましては、同窓会幹事、理事の皆さんに打開策の検討をお願いしているところですが、昨年9月創刊されました「ネットワーク」誌が、文学部・文学研究科と同窓会会員との連携を強化し、こうした状況を打破する突破口になるのではないかと期待しております。

また、同窓会活動の活性化にはそれなりの資金的裏付けが必要であることについては、贅言を要しないと思います。平成14年(2002年)よりは、新入生の皆さんより終身会費1万円を徴収させていただくこととなり、これにより文学部同窓会も一定の活動資金を得ることになりましたが、同窓会活動を更に活性化するためには、必ずしも十分なものではありません。会員の皆様には、この資金面を含め、同窓会の活動にますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2008年10月に開かれた第2回ホームカミングデーのコンサートから



どんどんリニューアルが進んでいる川内北キャンパス

information

10月10日・11日
東北大学102周年
ホームカミングデー開催

今秋10月10日・11日、第3回ホームカミングデーが開催されます。川内北キャンパスの百周年記念会館川内萩ホールで開かれるセミナーや式典、学内の施設見学などが予定されています。整備が進んでいる川内キャンパスを歩き、リニューアルされたレストランや食堂を利用してみませんか。詳細は3Pをご覧ください。



「責任」と「権限」
後藤敏文 著
石原謙 訳
「古代インド文献が人類に語るもの」リク・ヴェーダ 全訳に組み合わせる
石原謙 著
「外国語での読み、書き、話すについて」
石原謙 著
「俯瞰する力、具体的に堪える力」
石原謙 著



「失われた場所を探して」
ロストジェネレーションの社会学
メアリー・C・ブリントン 著
石原謙 訳



書籍部では「東北大学の先生の本」のコーナーも新設して、新刊書を並べています。これから、どんどん盛り上がりつつ行くことに期待したいですね。

第4号の主な内容

- ◆巻頭インタビュー(文学部からの発言) 佐藤嘉倫教授 Part 2
- ◆企業との対話 VOI4 アイリスオーヤマ&小泉政利准教授
- ◆歴史研究者メモリアル VOI4 石原謙博士
- ◆文学部の研究紹介 VOI4 後藤敏文教授の「リク・ヴェーダ」全訳
- ◆文学部ゆかりの宝もの VOI4 金谷文庫
- ◆図書館・書店との対話 あゆみBOOKS 仙台青葉通り店

ブックレットvol.4からの変化①

ブックレットvol.4の記事の中で、実は、67ページで紹介されている『失われた場所を探して』ロストジェネレーションの社会学』の著者であるメアリー・C・ブリントンさん(ハーバード大学教授)が、この6月に文学部の教壇に立ちました。「Changes in the Transition to Adulthood in Different Societies with Special Focus on the U.S. and Japan」のテーマで、社会科学特論II:行動科学論の集中講義を行ったのです。これは、ブックレットからの広がりの一例と言えるものではないでしょうか。「失われた場所を探して」ロストジェネレーションの社会学』は、同窓にとつてゆるがせにできない一冊になりましたね。

ブックレットvol.4からの変化②

「ブックレット」で力をいれている教職員や同窓生の著作への着目は、生協にも飛び火しています。川内南キャンパスの文系生協書籍部が、巻頭インタビューで取り上げている書籍を網羅してブックフェアを実現。数十種を並べて、それなりの販売結果を残したようです。書籍部では「東北大学の先生の本」のコーナーも新設して、新刊書を並べています。これから、どんどん盛り上がりつつ行くことに期待したいですね。

【発行】東北大学文学部同窓会 〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
tel. 022-795-6087 (月・金 午前10時~午後5時) fax. 022-795-6086 [mail] dosokai@sal.tohoku.ac.jp [URL] http://www.sal.tohoku.ac.jp
【発行年】2009年9月 ©東北大学文学部同窓会

■10月10日(土) 百周年記念会館 川内萩ホール

- 萩友会総会 11:00～(入場無料/事前申込必要)
- 仙台セミナー 13:00～(入場無料/事前申込必要)
 テーマ「新地域創造—自立的発展の基本戦略」
 基調講演「大交流時代 東北の可能性」
 : 東日本旅客鉄道株代表取締役社長・清野智
 パネル討論「エレクトロニクス革命—東北の拠点性」
 : セイコーエプソン株代表取締役会長・花岡清二
 : 東京エレクトロン株取締役専務執行役員・北山博文
 : 東北大学工学研究科教授・江刺正喜
 (co)河北新報社常務取締役編集本部長・西川善久

*川内北キャンパス 川内体育館で
 (卒業生(参加企業)のみ事前申込必要)
 12:00～在校生と卒業生との親睦会

■10月11日(日) 百周年記念会館 川内萩ホール

- 秋の文化フェスティバル (入場無料/事前申込不要)
 13:00～公演: マンドリン楽部、Jazz ORCHESTRA、
 男声合唱団、落語研究部、邦楽部、応援団、吹奏楽部、放送研究部(司会)
 *百周年記念会館 会議室で
 10:00～展示: 映画部、写真部、書道部、美術部、山岳部

- 記念コンサート 18:00～(有料/事前申込必要)
 第1ステージ: オーケストラと全体合唱(東北大学交響楽団ほか)
 第2ステージ: 学生歌(男声、混声、女声合唱団ほか)
 第3ステージ: 男声合唱(男声合唱団)
 第4ステージ: 混声合唱(混声合唱団)
 第5ステージ: オーケストラと全体合唱(東北大学交響楽団ほか)

■施設も自由にご覧ください。

10日・11日は、4つの施設が無料開放(事前申込不要)となります。
 ご家族でご利用ください。

- 史料館(片平) 10:00～17:00
 企画展「マンボウ青春記の仙台—北社夫と東北大学医学部—」
- 附属図書館(川内) 10:00～19:00
 平山文庫の常設展
- 総合学術博物館(青葉山) 10:00～16:00
- 植物園(川内) 9:00～17:00

(問い合わせ) 東北大学総務部広報課校友係
 TEL022-217-5059 FAX022-217-4818
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/alumni/>

(下記の写真は2008年の第2回ホームカミングデー時のものです)



ホームカミングデーとの連携
 —東北大学校友会発足後の
 文学部同窓会



文学部同窓会副会長
 蒼井茂

東北大学校友会が昨年発足し、間もなく一年を迎えます。その活動目標の一つに、「各局同窓会と連携・協力しあうこと」によって、相互の発展を図る」との文言があります。

これまでは校友会(元の全学同窓会)がリードし文学部同窓会がそれに協力するという形で行われてきました。具体的には、昨年は東北大学のホームカミングデーと連携して公開講演会を開催しました。演題は「いま、方言が面白い!」で、文学研究科の小林隆教授と東北放送の藤沢智子氏が講演をされました。会場の文教大講義室には一般の方も参加され、満席の聞き手で大変面白く聞かせていただきました。今年は、ホームカミングデーと連携しての文学部同窓会総会が開催されます。一昨年のようにこれまでほとんど参加されなかった同窓生が今回も多く参加されることを期待しています。これまでは何か壁みたいなものがあり、なかなか足を運べなかった同窓生もいらしたと聞いています。ホームカミングデーと連携することで、気軽に参加していただければ連携の意義があったと思います。

そのほか今後は、これまで各研究室が独自に行っていた、同窓会や公開講演会などを文学部全体として有機的に結び合わせての開催などはできないものかと考えています。また、文学部同窓会の総会時に、東北大学総長のご挨拶や他学部の教授から今話題の話をご講演していただくのも面白いと思います。「脳」の話や「新型インフルエンザ」問題、東北大学の「人工衛星」、裁判員制度等同窓生の皆さんが聞きたい話題をあげていただき、それをお聞きするのも楽しいと思いますが如何でしょうか。

102周年ホームカミングデーで、
 リニューアルされた川内南キャンパスもご覧ください

東北大学では、一昨年の創立100周年時から、同窓生、在学生、大学、そして仙台市民の交流、連携のための「ホームカミングデー」を開催。全学同窓会の解散、東北大学校友会の発足というトピックスもありました。

この1年で、川内キャンパスのリニューアルが進み、文学部講義棟などのある川内南キャンパスもずいぶんときれいになっていきます。生協の食事も美味しくなっています(残念ながら川内北キャンパスは、耐震工事のため建物がいぶ目隠しされていますが・・・)。

昨年は、百周年記念会館川内萩ホールの完成記念式典、記念コンサートとあわせて第2回ホームカミングデーの開催となりました。

ホームカミングデーのついでに、思い出のキャンパスを歩いてみてください。

column 東北大学校友会の名称が「東北大学校友会」と決定したことも報告されました

関東交流会で佐藤嘉倫教授の公開講演

8月2日、東京サピアタワー(東京駅北口)において、東北大学校友会の行事として「関東交流会」が開かれました。井上明久総長挨拶、北村幸久副学長・校友会理事の大学の現況報告、野家啓一東北大学理事・校友会代表理事の校友会の活動紹介につづき、ディスティングイッシュトプロフェッサー2人による講演、そして懇親会というプログラム。

講演では、文学研究科・佐藤嘉倫教授が「人間関係は犯罪を防げるか?—東京を事例として」のテーマで登壇。ご自身の故郷である東京下町には犯罪が少ないことを話題にしながら、23区の1975年と2005年の生活扶助率、小規模企業率と犯罪発生率を比較し、長期的な人間関係いわゆる社会関係資本が犯罪を抑制する働きを持つという傾向について話しました。



オープンキャンパスで、文学部をアピール

7月30日・31日、恒例の東北大学オープンキャンパスが開かれました。降ったり曇ったりのあいにくの天気でしたが、全学では万を超える高校生が全国から参加。学部ごとの趣向を凝らした案内が行われました。

文学部では、リニューアルされたキャンパスで、次のような公開講義を中心としたプログラムにより高校生にアピールしました。

- 辻本昌弘准教授(心理学)『人間と心理と行動』
- 名嶋義直准教授(日本語教育学)『日本語の会話について考える』



- 長岡龍作教授(東洋・日本美術史)『美術に見る日本人の世界観』
- 岩田美喜准教授(英文学)『ロミオとジュリエット』で味わう詩のこぼれ
- 山田仁史准教授(宗教学)『神話からさぐる人類宗教史』
- 有光秀行准教授(ヨーロッパ史)『きかんしゃトーマス』の島の歴史
- 荻原理准教授(哲学)『哲学者ソクラテス』
- 片岡龍准教授(日本思想史)『Doing』日本思想史



東北大学研究教育振興財団の「海外留学奨励賞」を文学部・文学研究科からは6名が授与

7月22日、片平の魯迅の階段教室において、(財)東北大学研究教育振興財団の「海外留学奨励賞」の授与式が行われました。財団が東北大学生の学習支援の一環として、海外留学の一助となる奨励金を授与するものです。残念ながら財団は今年度いっぱい解散することとなっていることから、今回が最後の授与式となりました(授与者24名中18名が参加)。

文学部・文学研究科では、次の6名が授与。半年・1年の留学を体験します。

西澤潤一財団理事長から賞状を受けた、右から田島歩実さん、関澤美育さん、西川慧さん

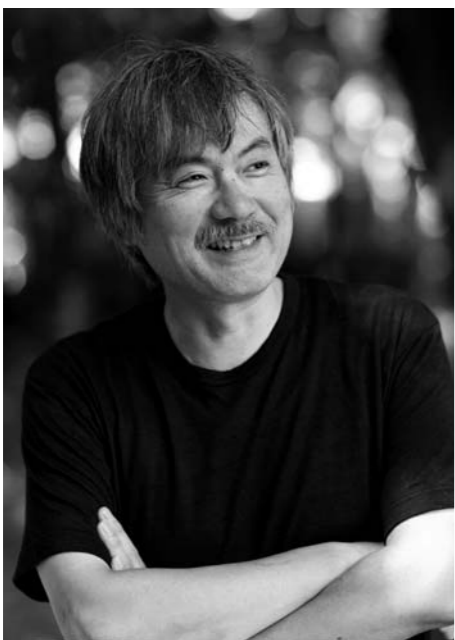


「青春のエッセー」阿部次郎記念賞」第3回作品募集中

11月3日の表彰式にご期待ください

「三太郎の日記」などで知られる阿部次郎博士(1923-50年在籍)の業績を顕彰し、東北大学創立百周年を記念して創設された「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」は、2009年度で3回目を迎えました。課題作品のテーマを「へぶつかりあう」とし、全国の高校生を対象に、5月初旬に募集を開始した作品募集も、いよいよ9月10日が締切りです。

在仙の芥川賞候補作家・佐伯一麦さん、西川善久河北新報社常務取締役編集本部長を選考委員に招き、野家啓一東北大学理事・東北大学附属図書館長、花登正宏文学部長・阿部次郎記念館長、長谷川公一文学部教授、岩田美喜文学部准教授を加えた6人による選考結果は、11月3日の表彰式において発表されることになっています。表彰式は、「市民オープンキャンパス・紅葉の賀」と併せて開かれます。足をお運びください。



今年も、11月3日に「紅葉の賀」

文学研究科と東北大学植物園の共催で開催している東北大学市民オープンキャンパス「紅葉の賀」は、今年も11月3日、植物園ほかを会場として開催いたします。



10月3日、丸森町の齋理蔵の講座閉講

文学研究科では、キャンパスを飛び出しての公開講座にも取り組んでいます。その一つが、大崎市岩出山で開いている「有備館講座」と並ぶ、宮城県南丸森町の「齋理蔵の講座」。

丸森町は福島県境にあり、阿武隈川の舟下り、美しい蔵の建物が見られる齋理蔵敷、おにぎり街道やイノシシ鍋、タケノコ狩りや干し柿づくりなどの多彩な観光資源で知られる町です。

文学研究科では丸森町教育委員会・中央公民館・財団法人阿武隈ライン保勝会と共催で、6月から「南米の日系人を訪ねて」(辻本昌弘准教授)、「私が見たドイツ」(島崎啓准教授)、「日本の文化の芽生えー京都から」(泉武夫教授)、「インドネシアから考えるわたしたちと『宗教』」(木村敏明)「准教授」を開催。今年度は、10月3日の「韓国ー急変する社会の姿」(嶋陸奥彦教授)で閉講式となりました。



紅葉の賀09	
10:00	オープニング・セレモニー
10:15 ~	尺八野外演奏(泉武夫教授ほか)
11:00 ~ 12:30	植物園内ガイド付き散策
13:30 ~	公開講演会 講演会場:文学部第一講義室(旧文教大講義室) 講演者:佐伯一麦氏(作家) 題名:「漱石の手紙からー私の文学雑感」
14:40 ~ 15:30	阿部次郎記念賞授賞式 審査員:野家啓一・佐伯一麦・西川善久・花登正宏・長谷川公一・岩田美喜
15:30 ~ 16:00	俳句会授賞式

2008年～09年、同窓生のこんな著作が見られました

2009年11月スタート NHKスベシヤルドラマ『坂の上の雲』で 2人の同窓、山折哲雄・島田謹二氏に注目!!

2009年11月29日、司馬遼太郎の同名小説をドラマ化するNHKのスペシヤルドラマ『坂の上の雲』がスタートします。日露戦争(1904-05年)を主人公時代の、秋山好古・真之兄弟、正岡子規、広瀬武夫、夏目漱石などの交流まで描くドラマですが、これには少なからず東北大学文学部同窓が関係しています。

一つには、テレビドラマの制作に関して、山折哲雄氏(文学部卒・文学研究科単位修得)が諮問委員として監修に参画していることです。

二つ目は、司馬遼太郎原作『坂の上の雲』には、島田謹二氏(法文学部卒)が解説を書いているだけでなく、島田氏はこの前後の時代について『ロシヤ戦争前夜の秋山真之』(1990年)、『アメリカにおける秋山真之』(1969年)、『ロシヤにおける広瀬武夫』(1961年)などを著している。



司馬遼太郎『坂の上の雲』第八巻に島田謹二氏の解説があります

著しているのです(以上、いづれも朝日新聞社日新聞社刊)。解説「坂の上の雲」第八巻に記された明治の国家体制が新しく作られた時、長いこと資源乏しく貧しいがおだやかな生活に甘んじていた当年の日本の若いエリートたちは、当時の花形である軍事方面に群を成して赴いた。またその網の目をめれた少数のエリートは、日の目のあたらぬ世界で、独自の新しい文芸の花をほそぼそと開かせた。日本を代表する精神は、軍事と文芸と—その両面に異なる光茫を放った。これをきわめみることは、近代日本を知るのに絶対必要な仕事である。この作者がこの大作のために十年苦勞したのは、ある意味で当然であった。



といった指摘を踏まえ、『ロシヤ戦争前夜の秋山真之』などにも目を通してみれば、テレビドラマも一段とおもしろく視聴できるのではないのでしょうか。



ブックレットvol.12(2007年12月発行)でクローズアップした村岡典嗣博士(1924-46年在籍)について、2009年6月、雑誌『季刊日本思想史』(ベリカ出版社)が一冊丸ごと特集を組んでいます。

復刊された(2009年2月)ほか、平凡社の平凡社東洋文庫で『増補本居宣長』(全2巻)、『新編 日本思想史研究』を讀むことができます。雑誌と併せて讀んでみてはいかがでしょうか。

多田等観博士著作『チベット』につづいて 『チベット滞在記』も復刻

創刊号で、岩波新書から多田等観博士(1935-43年在籍)の『チベット』が復刊されたことを記録しました。なんと今春5月には、講談社学術文庫から『チベット滞在記』(牧野文子編)が刊行されたのです。

多田等観博士の『チベット』は、1935-43年在籍の『チベット』が復刊されたことを記録しました。なんと今春5月には、講談社学術文庫から『チベット滞在記』(牧野文子編)が刊行されたのです。



『チベット滞在記』は、多田等観博士のチベット滞在記の復刊です。

多田等観博士の『チベット』は、1935-43年在籍の『チベット』が復刊されたことを記録しました。なんと今春5月には、講談社学術文庫から『チベット滞在記』(牧野文子編)が刊行されたのです。

『チベット滞在記』は、多田等観博士のチベット滞在記の復刊です。

川内生協で目に付く『インドを知る事典』や 『日本の歴史』十二巻・別巻も同窓の仕事

川内南キャンパスの生協書籍部には、東北大学関係者(特に教員)の新刊コーナーがつけられています。最近、目につくところでは、山下博司国際文化研究科教授・岡光信子文学研究科専門研究員(いずれも文学研究科修了)「インドを知る事典」(2007年9月東京堂出版)や、平川新東北アジア研究センター教授(文学研究科修了)「日本の歴史十二巻 開国への道」(2008年11月小学館)、『青木美智男元専修

大学教授(文学研究科修了)『日本の歴史別巻 日本文化の原型』(2009年5月小学館)などがあります。



ア文庫)、『御書司たちの王朝時代』(09.8 角川選書)

篠木幹子(文学部卒業・文学研究科修了)共著『個人と社会の相克』(08.4 ミネルヴァ書房)

島田謹二(文学部卒業)バイロン著『カイン』(09.2増刷 岩波文庫)

菅野仁(文学研究科修了)『友だち幻想人と人のくつながり』(08.3 ちくまプリマー新書)

高木神元(文学研究科修了)『空海』(09.4 吉川弘文館)

高橋富雄(法文学部卒、1949-85年在籍)『高橋東北学論集 第4部第16集』(09.1 歴史春秋社)

中村彰彦(文学部卒業)『われに千里の思いあり 上中下』(08.9 ~09.2 文藝春秋)、『黒船以降一政治家と官僚の条件』(09.1 中公文庫)

中村靖彦(文学部卒業)『シカゴファイル2012』(09.1 日本放送出版協会)

長谷川松治(文学部卒・名誉教授)訳『菊と刀 日本文化の型』(08.10増刷 講談社学術文庫)

早尾貴紀(文学部卒業)『ユダヤとイスラエルのあいだ』(08.3 青土社)、『ディアスポラから世界を読む』(09.6 明石書店)

平川新(文学研究科修了)『日本の歴史12 開国への道』(08.11 小学館)

星亮一(文学部卒業)『謀略の幕末史一幕府崩壊の真犯人』(09.6 講談社+α新書)、『偽りの幕末動乱一薩長謀略革命の真実』(09.5 だいわ文庫)

前田勉(文学研究科修了)『江戸後期の思想空間』(09.2 ぺりかん社)

松本宣郎(名誉教授)『キリスト教の歴史1・2』(09.8 山川出版)

松長有慶(文学研究科修了)『こだわらない』(08.12 PHP研究所)

丸山雍成(文学部卒業)『耶馬台国 魏使が歩いた道』(09.3 吉川弘文館)

宮坂有勝(文学部卒業)『傍訳 弘法大師空海 大日経開題』(09.7 四季社)、『今日を生きるブツダのことは スタタニパータ篇』(08.6 四季社)

村上哲見(名誉教授 1985-94在籍)『唐詩』(08.12 講談社学術文庫)

山折哲雄(文学部卒業・文学研究科修了)『日本人と「死の準備」』(09.7 角川SSC新書)、『空海の企て一密教儀礼と国のかたち』(08.11 角川選書)、『山折哲雄ころ塾 (2)』(08.10 読売新聞社編東方出版)

山下博司(文学研究科修了)『ヨーガの思想』(09.2 講談社選書メチエ)

山田史生(文学部卒業・文学研究科修了)『もしも老子に出会ったら』(09.1 光文社新書)

屋山太郎(文学部卒業)『福田内閣と官僚内閣の終焉』(08.8 国民会館)、『天下りシステム崩壊』(08.7 海竜社)

■主な同窓生の最近著作例 (五十音氏名順、敬称略)

*◆印は文学部・法文学部に在籍した教員です。*文庫・新書は少し古いものまで含めました。

青木美智男(文学部卒業)『日本の歴史別巻 日本文化の原型』(09.小学館)

浅野裕一(文学部卒業・文学研究科修了)『孫子』(09.4増刷 講談社学術文庫)

◆阿部次郎(1923-50在籍)『新版 三太郎の日記』(08.11 復刊 角川選書)

天和公(文学部卒業)『みんなの寺 絵日記』(08.12 サンガ)

有馬哲夫(文学研究科修了)『アレン・ダレス 原爆・天皇帝・終戦をめぐる暗闘』(09.8 講談社)

◆石原謙(1924-40在籍)マルティン・ルター著『新訳キリスト者の自由・聖書への序言』(08.8増刷 岩波文庫)

入間田宣夫編(文学研究科修了)『牧の考古学』(08.3 高志書院)

内山淳一(文学研究科修了)『動物奇想天外一江戸の動物百態』(08.3 青幻舎)

大角修(文学部卒業)『平城京 全史解説』(09.1 学研新書)

大河原美以(文学部卒業)『心が元気になる本1~3』(08.3 あかね書房)

岡村道雄(文学部卒業)『日本の歴史シリーズ1 縄文の生活誌』(08.11 講談社学術文庫)

◆小川環樹(1938-50在籍)『史記世家』(08.11増刷 岩波文庫)

小野正弘(文学研究科修了)『オノマトペがあるから日本語は楽しい』(09.7 平凡社新書)

◆金谷治(1948-83在籍)『老子』(09.4増刷 講談社学術文庫)

川合康三(助手・助教授)『曹操 矛を横たえて詩を賦す』(09.7 ちくま文庫)

木田元(文学部卒業)『哲学は人生の役に立つのか』(08.10 PHP新書)、『木田元の最終講義 反哲学としての哲学』(08.10重版 角川ソフィア文庫)

熊谷公男(文学部卒業・研究科単位取得)『日本の歴史シリーズ3 大王から天皇へ』(08.12 講談社学術文庫)

高城高(文学部卒業)『高城高全集1~4』(08.2~11 創元推理文庫)、『函館水上警察』(09.7 東京創元社)

◆河野興一(1927-49在籍)ルイ・ドゥ・ブロイ著『物質と光』(08.11増刷 岩波文庫)

佐藤郁哉(文学研究科修了)『フィールドワーカー書を持って街へ出よう』(06.12 新曜社)

佐藤賢一(文学研究科修了)『小説フランス革命1~3』(09.1~09.3 集英社)、『カペー朝一フランス王朝史1~』(09.7~ 講談社現代新書)

紫田信一(文学部卒業・文学研究科修了)『殴り合う貴族たち』(08.11 角川ソフィ

2008年～09年、教員・学生のこんな著作が見られました

文学研究科院生たちが執筆に参加している タナトロジー研究会の『どう生き どう死ぬか』

並べられた本の中でも特に注目
は、2009年5月発行の『どう
生き どう死ぬか』(弓箭書院)で
しよう。

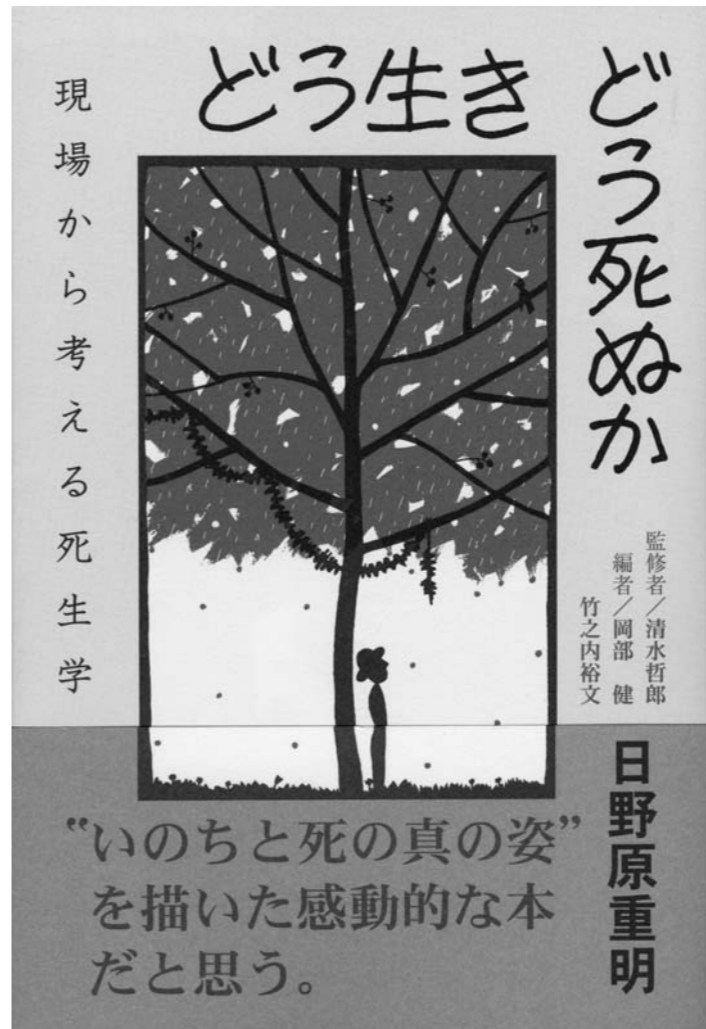
第一に、本書は、1993-06
年の期間、文学研究科で助教授・
教授として教壇に立っていた、現
代日本を代表する哲学者の一人で
ある清水哲郎(東京大学教授の監
修、東北大学医学部卒の岡部健
修、東北大学文学部卒の竹之内
裕文、静岡大学准教授の編集と
いう、東北大学関係者によりま
められた本だという点です。

そして第二には、文学研究科の
桐原健真助教授をはじめ、日笠晴
香さん(博士課程後期)、鈴木亮三
さん(博士課程後期)、高橋由貴さ
ん(博士課程後期)、大村哲夫さん
(博士課程後期)という4名の大学
院生が執筆に加わっているとい
点です。
出版に至る経緯について、清水
教授は、「はじめに」で
本書は、監修者である私と編者
のひとり岡部健修を除けば、もう
ひとり編者である竹之内裕文氏を
はじめとして、若い世代の研究者
たちを著者とする作品である。詳

しくは本書の「序」や「あとがき」
に書かれるはずであるが、彼らは、
岡部氏の呼びかけで始まったタナ
トロジー(死生学)研究会におい
て、在宅ホスピスの現場の問題に
触れつつ、議論を深め、あるいは
在宅ホスピスの現場に入り込んで
調査を重ね、まさに本書のタイト
ルが示すように「どう生き どう
死ぬか」ということを「現場から」
あるいは「現場に臨みつつ」考えて

きた。本書はそれが結実したもの
にほかならない。
と述べています。

論を公にすることの重大さと、
次が続いてこそ本物という認識へ
私たちは本書を手にし
て、桐原健真助教授の
「あの世はどこへ行った
か」「日本人の死生と自
然」、日笠晴香さんの「最
期の選択」、鈴木亮三さん
の「死すべきものの仕事」、
高橋由貴さんの「遺された
言葉」、大村哲夫さんの「ス
プリチュアル・ケア」のコ
ラムなどを読むことによ
り、死について、死を迎え
る心構えについてなどを
深く考えるきっかけとす
ることができるとしよう。
ところで、本格的な刊行
物としては初めての体験
であったと思われる大学
院生たちは、この出版をど
のように感じたのでしょ
うか。



出版されるためには、出
版社との人的ネットワーク
という現実の力が必要であ
り、東北大学には、それが
小さいということ。
出版されたものは、社会
的な有意味性という範疇
でも徹底的な批判にさら
されるものだという点。
1回本にすることは幸運
があれば巡ってくるかもしれ
ないけれど、2冊、3冊
と出版されていくためには、
1冊目以上の蓄積と評
価が必要だということ。
などを感じているので
はないかと推しはかられ
ます。本書を講読し、感想
などを送っていただくこ
とにより、若い力を大いに
刺激していただきたいも
のです。

交流コーナー

ブックレットへの感想などが届いています。

文学部・文学研究科の情報誌『ブックレット』は公共図書館や書店、大学、
高校等への配布、希望のあった同窓生への配布等によって流通させています。そ
の成果が徐々に現われており、出版社からの評価の声、同窓生の皆さまからの

感想やご意見が寄せられています。
『ブックレット』からのネットワークがさらに広がるように、編集部へ寄せら
れた同窓生の皆さまの声を、一部掲載させていただきます。

文学部を出てから60年近く、人文社会
学とはおよそ無縁な人生を歩いてきまし
た。卒業当時、人気企業ナンバーワンだ
った朝日の記者となり、「英文とはもう無
関係。同窓会には呼ばないで」と英文科
に通知したことを思い出します。その文
学部からりっぱな冊子類をご恵贈いただ
き、新築の研究科棟の写真を拝見、深い
感慨に浸っています。

2冊のブックレットですが、見事な編
集ぶりにまず敬意を表します。私自身、
新聞社の整理部で長年携わってきた仕事
だけに、創刊の意気込み、ご苦勞がよく
分かります。

東北大学のカラーや方向性はこれでい
いとしても、回を重ねたらより幅広く、
気楽に読めるものもお願いしたいと存じ
ます。その点、第一回阿部次郎賞に輝い
た女子高校生2人のエッセイの追究力に
拍手を送ります。

渋谷富業(昭和25年 英文学)

「ネットワーク」創刊号や「ブックレ
ット」等、懐かしく読ませていただきました。
昨年夏、酷暑の百周年行事を片平丁キャン
パスにてめぐり歩きました。

正門横の旧制二高正門跡にもはじめて
行ってみました。6年ほど前、西洋史クラ
ス会(S33卒)で、正門前にて記念撮影
したとき、こちらが正門だとはじめてわ
かった人がいました。また大半の者が、
すぐ近くに、魯迅の学生時代の下宿の建
物が現存することを知りませんでした。
学生時代とは、先ばかり見て、いかに足
下を見ていなかったか。「ネットワーク」
「ブックレット」には、懐かしい当時の話
がたくさん載ることを期待しています。

田中芳雄(昭和33年 西洋史)



写真は、平成19年8月3日岩手日日新聞より引用

一切の勤
務から解放
されたのを
機に、70年
代に入っ
てから、ある
漢文古書の
訳注作業に
取り組んだ。
仙台藩の儒
者芦東山の

大著『無刑録』である。全18巻中16巻ま
では先人の手掛けたものがあるが、以後
久しく途絶えていた。残る2巻を4年がか
りでなんとか完結することができた。

内容は中国刑法史論といったもので、
必ずしも私の専門領域ではない。したが
って、その訳注もいまだ十全を期したも
のとはいい難い。かつて私の恩師であっ
た吉田賢抗教授(中国思想史)は、『無刑
録』を評して、「東北の著作文化最大の誇
り」といわれた。今後、特に中国学専攻諸
賢の考証を期待している。

小野寺東一郎(昭和28年 国文学)

「ブックレット」No.3拝見いたしました。
素晴らしい企画・事業ですね。ずい
ぶん時代も変わったと感ずりますし、東北
大学の心意気を頼もしく思います。

ところで、私は卒業後、東京で教員生
活を送っています。現在は都立国立高校
で校長を務めております。生徒たちは毎
年10人前後が東北大を志望し、5人前後
合格しています。

ついでに、文学部の情報を生徒に紹介
したく、このブックレットを1部進路室か
自習室に常備できればと考えています。

池口康夫(昭和50年 印度学)

都立高校美術科教諭を経て、目下は画業に専心。行動美術協会、及び汎美術協会会員。春秋い
ずれにもあるそれぞれの協会展に、100号から200号の抽象表現傾向の作品を出品し、さらに
ほぼ各年に銀座の画廊で個展開催。

文学部を出て美術科教諭は珍しいのではないかと思います。

古田敦彦(昭和35年 美学)